

遺品が 教えて くれたこと

● 1 ●

遺品とは何でしょうか？

遺品といわれる家財道具は、故人にとってみればとても大切なもので、生活を支えてくれたもの、癒してくれた

「人の振り見て我が振り直せ」という言葉がありますが、その現場から私自身がいろんなことを学びました。

* * *

私は、日本で初めて遺品整理専門の会社を始め、今までに1万件以上の遺品整理の現場に伺って来ました。

故人の住んでいた遺品整理の現場には、故人の生きさまが遺されており、会ったこともないのに私は故人の性格や好みなどを知ることが出来ます。

男性か女性か、どういうものが好きで、どういう服を着て、どういう仕事をしていたなどということ、友だちは多かったか少なかったか、お金は持っていたかどうかということなどを感ずることになるのです。

キーパーズ株式会社 代表取締役

吉田 太一



【よしだ・たいち】1964年、大阪府生まれ。2002年、日本初の遺品整理専門会社「キーパーズ」を設立、年間1500件にも及ぶ遺品整理サービスを提供している。本業以外に、孤立死を防ぐためのDVD制作や、講演活動などを精力的に行っている。著書に、『遺品整理屋は見た！』『おひとりさまでもだいじょうぶ。』『遺品整理屋は聞いた！～遺品が語る真実』『孤立死～あなたは大丈夫ですか？』『私の遺品お願いします。』がある。

「孤立死」が問題じゃない。
「孤立化」してしまっている人が
非常に多いのが問題なんです

ものです。

もし、何もない部屋に1人ポツンといれば、精神的なバランスを取るのが非常に難しくなり、たぶん頭がおかしくなるのではないかと思えます。

しかし、そこに自分の好きなものを買って揃えていくと、その空間がその人にとっての癒しの空間に変わるんで

す。つまり、自分の家にある家財道具

はペットと同じなんです。それに癒され、生活を支えられて、精神的なバランスを取りながら生きていくのです。

しかし人は、自分の死ぬ時期がわかりませんから、長年使ってきた物とお別れがしつかりできません。ほとんどの人は死んでしまってから気付く